

夷酋列像

から学ぶ・考える
海外流出の謎とポリティクス



蠣崎波響《夷酋列像》「イコトイ」
1790年 ブザンソン美術考古博物館蔵
©Musée des beaux-arts et d'archéologie de Besançon



蠣崎波響《夷酋列像》「チキリアシカイ」
1790年 ブザンソン美術考古博物館蔵
©Musée des beaux-arts et d'archéologie de Besançon

《夷酋列像》とは

《夷酋列像》は、1790年に、松前藩の家老で画家の蠣崎波響(1764～1826)が、藩命を受けて描いたアイヌの首長ら12人の肖像画。超絶技巧ともいふべき精緻な描写から江戸時代においては時の権力者や財界人、文化人らの注目を集めたが、松前藩がプロパガンダとして制作し利用したとの見方が強い。現代でも異色の江戸絵画として評価されているが、その大きな契機となったのが、1984年のフランス・ブザンソンでの発見であった。いつ誰がフランスへ運んだのか。そうした謎の解明とともに、《夷酋列像》の政治性をめぐる議論が進められている。

プログラム 2026年10月3日(土) 13:00～17:00 開場12:30

- 13:00～14:30 第1部 《夷酋列像》の謎 フランスの視点－ブザンソンで動き出した修復プロジェクト
プレゼンテーション：加藤利器（札幌日仏協会理事長、元北海道新聞パリ特派員）
コメント①：井上研一郎（宮城学院女子大学名誉教授、元北海道立近代美術館学芸員）
コメント②：五十嵐聡美（美術史家、元北海道立近代美術館学芸部長）
- 14:50～16:00 第2部 《夷酋列像》を教材化する－歴史を自分事化し、歴史を紡ぐ主体となるために
プレゼンテーション：渡邊大輔（北海道札幌西高等学校教諭）
コメント①：吉嶺茂樹（札幌日本大学高等学校教諭）
コメント②：佐野祐子（北海道札幌西高等学校教諭）
- 16:20～17:00 パネルディスカッション
登壇者：加藤利器、井上研一郎、渡邊大輔、吉嶺茂樹、佐野祐子
モデレーター：五十嵐聡美

お申込み ※事前申込制

受付フォーム： <https://x.gd/4hc56> もしくは右下のQRコードからお申込み下さい。

申込期限：9月30日(水) 24:00

◆開催前日に登録メールアドレスへ参加情報が送付されます。◆受付期間後の受付は出来かねますので、ご了承下さい。

◆同一の方から複数回お申込みがあった場合、直近のお申込み情報を適用します。

◆後日のオンデマンド配信は行っておりません。◆受付完了後、欠席する場合のご連絡は必要ありません。

